

かどうか…。急に悪くなることが
多いものですから。

**自ら考え、周りに伝え、共有する
それを何度も繰り返し返す**

横：周りの人は延命治療は受けたくな
いと機械につながれた最期は嫌
だと言いますが、その内容がわか
らないので、そのついでと、一
般の人は判断することは難しいか
もしれませんね。

院：医療者は治療内容についてはじっか
り説明します。また、状態によつて
は治療しないという選択もある
かもしれません。ただし、何もしな
かったらどうなるかということも
きちんとお話しします。

今、このACPをひろげているの
は、結局、基本的には自分で考えま

しようというごなんです。自分
の意見をきちんとみなさんに伝え
てくださって。そうしないと周り
のみなさんは想像することしかでき
ないから。

横：例えば、誤嚥を繰り返すようになら
たり、そこで食事をやめるのか。も
し自分で食べられるなら、誤嚥しな
がらでも食べたいものを食べて、と
するのか。

院：はい。そういう選択もあると思いま
す。

横：どちらでもいいわけですね。

院：はい、それは本人と家族がそれを承
知で食べるのは構わないです。確か
にそれで、もしかすると詰まって窒
息したり、あと、ひどい肺炎を起し
す可能性もあるんですけど。それ
を防止するために一切口にしない、
という選択もあります。でも、食べ



▲市民病院 神谷院長

なくても自分の
唾液でも誤嚥は
してしまっ
てしまうん
です。

横：そうですね。昔
は食べられな
くと自然に死
ぬしかなか
つたんです。最近
は点滴などで生
きられるん
です。院：そ
うなんです。そ
れでもそうや
つて生きていく

が自分として許せるかどうかで
す。自分が生きていくのがね。
正解はないと思うんです。そういう
のって。

横：そうですね。

院：本人はこうしたい。でも周りもこ
うしたい。だからそれを、お互い元
気がなうちに、まずは一回話し合っ
て、お互いがどう思っているかを伝える
ことが大切なんです。

横：そうですね。子どもたちにそんな罪
悪感を感じさせたくないです。

院：はい。だから、もし自分がそう
な

た時にどうしてほしいか、周りの人
と話し合っておく。

横：話し合っておけば…。

院：はい、本人の希望だということ
になりますね。それがACPなん
です。一度決めたら終わってしまう
わけではなく、何度も話し合いを繰
返すことが大事なんです。

横：その都度、書いておくか、言っ
ておくか、子どもたちは罪悪
感を感じなくて済むかもしれ
ないことですね。

院：でもみなさん「いや、そんな言
わなくてもわかるだろう」と結構
思っていますかね。

自分が考えていることは、やっぱり
周りの人に、少なくともすぐ近くの
人には伝えておくことが大切だ
と思います。



▲話し合いのすすめ方の例

この様な取り組みは、個人の主体的な行いによって考え、
進めるものです。
知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。